

かがやき

Hiroshima City Hospital public relations magazine

Kagayaki

次世代の医師を 育てています

広島市立広島市民病院 副院長 檜垣 健二

「医師臨床研修制度」という言葉は聞かれたことがあると思いますが、その詳細についてご存じでない方も多いのではないのでしょうか。

医師の研修制度は、昭和21年に実地修練制度(いわゆるインターン制度)が創設されましたが、昭和43年に廃止されて、新たに臨床研修制度が創設されました。さらに、平成16年に新臨床研修制度が創設されて現在に至っています。

従来の研修制度は地域医療との接点が少なく、専門の診療科に偏った研修が行われ、「病気を診るが、人は診ない」と評されていました。また、多くの研修医について、処遇が不十分で、アルバイトをせざるを得ず、研修に専念できない状況でした。そこで、医師の臨床研修の必修化に当たっては、医師としての人格を育て、プライマリ・ケアの基本的な診療能力を修得するとともに、アルバイトをせずに研修に専念できる環境を整備することを基本的な考え方として、制度を構築されました。そして重要なことは、従来の研修制度が努力目標だったのを、必修化したことです。

そのため、研修医はどこかの病院で2年間決められたプログラムで研修を受けなくてはなりません。ところが、各病院は研修医の受入定員が決まっています。そこで、マッチングというシステムがあります。これは名のごとく病院と研修希望者とのお見合いです。このシステムのいいところは病院が研修希望者に選んで

もらうように研修プログラムを整備し、研修希望者も病院から指名されるように努力することです。その結果、競争原理が働き、研修指定病院はランキングされます。

この新制度が始まって10年あまりですが、当院は今までの研修管理委員会のメンバー達の努力と研修を終えた先生たちの活躍でランキングでは上位に位置してきました。

私たちの病院にも、得意分野はたくさんありますが、将来嘱望される優秀な研修医達もその自慢の一つですので、皆さん方も気軽に研修医達に接してください。

患者さんの権利に関する宣言とお願い

広島市立広島市民病院は、信頼され満足される医療を提供するため、次のような患者さんの権利を尊重します。

1. あなたには、個人として尊重される権利があります。
2. あなたには、良質で適切な医療を平等に受ける権利があります。
3. あなたには、診療に関して十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
4. あなたには、自分自身の治療などについて、自分の意見を述べ、自ら決定する権利があります。
5. あなたには、当院での医療に関するプライバシーを保護される権利があります。

これらの権利を守り、より良い医療を実現するには、患者さんと医療提供者とが力を合わせて取り組む必要があります。そのために、患者さんも積極的に医療に参加・協力する責任があることをご理解のうえ、ご協力くださるようお願いいたします。

基本理念

患者さんと協働して、心のこもった、安全で質の高い医療を行います。

～基本理念実現のための3つの柱～

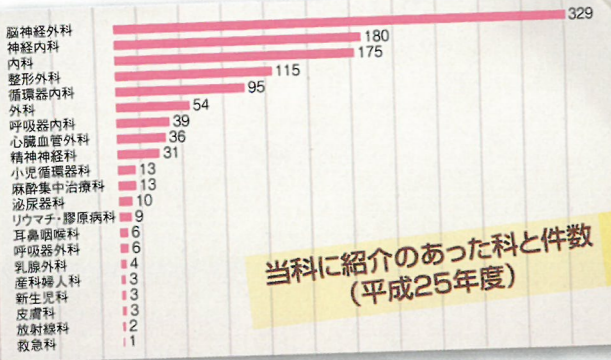
1. チーム医療を推進し、信頼され満足される医療を行います。
2. 地域医療機関との連携のもとに、救急医療と高度で専門的な医療を行います。
3. 健全な病院経営を行うとともに、すぐれた医療人の育成を行います。

リハビリテーション科の紹介

当院のリハビリテーション科は、入院患者さんのリハビリテーションを実践しています。我々は、患者さんの笑顔を再び取り戻すために根気強く取り組んでいます。

●リハビリテーション科の紹介・現状

リハビリテーション科は、北棟の2階への移転から、早や3年目に突入しました。リハビリテーション科は、他科との関連が非常に強い部署で、ほとんどの科より患者さんが紹介され入院早期からリハビリテーションを提供しています。カンファレンスは週3回、当科のスタッフと当院の脳神経外科、神経内科、循環器内科の先生方、言語聴覚士、社会福祉士、精神保健福祉士の方々、広島市立リハビリテーション病院の先生方を交え病院内・外で連携をとっています。また、各種委員会や部会への参加要請も多く、スタッフ総出で東奔西走しています。週末は、患者さんのリハビリテーションが滞らないようにスタッフが輪番で対応しています。そんな忙しい毎日ですが、患者さんの笑顔を再び取り戻すお手伝いのできたら、これにまさるものはありません。



●紹介科

昨年度、当科に紹介のあった科は21科で件数は1132件でした。そのうち、紹介の多かった診療科は脳神経外科が329件(全体の29%)、神経内科が180件(全体の16%)でした。順に、内科が175件、整形外科が115件、循環器内科が95件と続いています。また、ICU(集中治療部)や救命救急センターから当科に紹介のあった件数は342件で、全体の30.2%にあたります。そのため、常に全身状態に配慮しながら、適切なリハビリテーションを提供しています。



●笑顔を取り戻すために

当科スタッフの集合写真です。西川主任部長を中心に若くて元気のあるアットホームな部署です。リハビリテーションが必要な患者さんに最適な治療が提供できるように勉強会や研修会への参加にも努めています。最後に、患者さんが安心してリハビリテーションを受けられるような雰囲気づくりを心がけていますので、何か疑問な事やご相談がありましたら、何なりと声をおかけください。

カンサーボードのご紹介

副院長 二宮 基樹

がん患者さんの診断や治療方針決定に困った時に院内全体で論議する場がカンサーボードです。ひとつの画面を見ながら参加者全員で問題点を考えていくと、独自であるいは少数で考えていたときと比べてとても良い知恵が湧いてきます。見えなかった点が見えてくることもあります。その結果が診療現場に反映されるのです。がん診療のセーフティーネットとしてのカンサーボードはこれからも大切な位置を占め続けていくことでしょう。



外来診療のご案内

診療受付時間

午前8時30分～午前11時00分
※眼科/火・木曜日
午前10時00分まで
診療科によっては休診日がありますので事前にご確認ください。

休診日

土曜日・日曜日・祝祭日・8月6日
年末年始(12月29日～1月3日)

紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか1,610円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。



総合周産期母子医療センター開設35周年を迎えて

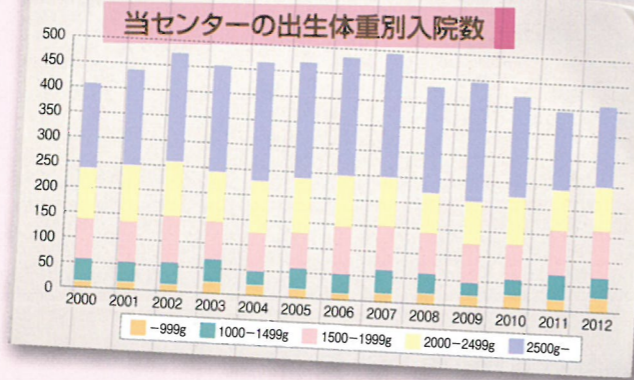
当院の周産期医療は1979年の未熟児新生児センター開設に始まりました。開設時20床であった病床数は、1989年の小児外科開設に伴い、25床に増床後、1995年に30床となり、2012年に現在の33床となっています。2006年春、産科と新生児科がワンフロアとなった病棟が完成し、総合周産期母子医療センターの指定を受けました。新生児科は医師8名と看護師54名のスタッフで、24時間赤ちゃんの治療を行っています。小児外科・循環器小児科の専門医もあり、これら疾患の治療も可能です。

当センターは広島県内で最も多くの赤ちゃんの診療を行っており、年間の入院数は2000年以降400人をこえ、2007年の495人をピークに少子化の影響でやや減少傾向であるものの、400人前後で、入院する赤ちゃんのうち4人に1人は呼吸器による治療が必要です。

入院の約半数を占める院外の診療所などで生まれた赤ちゃんの90%は、医師2名が同乗する専用の救急車で迎え搬送を行っています。

新生児集中治療室(NICU)は赤ちゃんの命を救う場であるとともに、お母さんと赤ちゃんが出会い、母子関係が育つ場です。赤ちゃんがNICUに入院させざるを得なくなったお母さんは不安と自責の想いを抱いており、われわれは赤ちゃんに専門的、高度な治療するだけでなく、入院してくるひとりひとりの赤ちゃんにふさわしい優しい環境を作り、御両親の心に寄り添うケア(ファミリーケア)を行いたいと思っています。面会の制限をできるだけなくし、面会ノートに思いを書き留めてもらい成長の記録をつくるなど、温かく人のぬくもりのあるNICUづくりを心がけています。児の発達を促すための理学療法士の介入や、お母さんの心のケアにあたる臨床心理士などの支援も行っています。また退院後に在宅医療が必要な児には、両親の肉体的精神的な負担を軽減するために、地域の保健師、訪問看護ステーションと連携を取りながら、より良い在宅医療を目指しています。

NICUを支えているのはテクノロジーではなく人間であり、ひとの子どもはひとの手でしか育ちません。周産期医療の最終の目的は親と子どもの幸せであり、御両親がわが子に「生まれてきてありがとう」と思える医療でありたいと思っています。赤ちゃんは愛されるために産まれてくるのだから。



総合周産期母子医療センタースタッフ



総合周産期母子医療センター医師



在胎 23週4日
出生体重: 566g

現在 1歳10か月
体重: 8.83kg
身長: 77.0cm

NICUに遊びに来ました

退院後も成長の喜びを一緒に分かち合うことの幸せ

Jump up from ペットボトル ~スモールベビー フォトブックから~



出生体重
果穂ちゃん: 1,214g
一樹くん: 506g

現在3歳
果穂ちゃん: 12.3kg, 87.7cm
一樹くん: 10.2kg, 84.3cm

予定より早く小さく、この世にうまれてきた双子。申し訳ない思いで涙を流した。あれから一年。それぞれ生まれた時と同じ重さのペットボトルをおもちゃにする二人を見て、本当に大きくなったと痛感。一年前には想像すらできなかった幸せな日々。お誕生日おめでとう。

1歳の誕生日にご両親から

歯科口腔外科



歯科口腔外科は口腔・顎・顔面の先天性および後天性の疾患を扱う診療科です。当科では主に腫瘍・嚢胞・外傷・歯科インプラント・口蓋裂に対する装置・口腔内の衛生管理などの治療を行っており、日本口腔外科学会認定関連研修施設・日本顎顔面インプラント学会認定研修施設・口腔ケア学会認定施設となっております。

当科の診療スタッフは、医療の質改善委員会・栄養管理委員会・手術室運営委員会・摂食嚥下口腔ケア部会・NST(栄養サポートチーム)・糖尿病部会・言語外来・エイズ診療部会などの構成員となっており、院内の多職種と連携しながら様々な治療に対応しています。

安心・安全な治療をささえる周術期口腔機能管理

近年、がん等に対する全身麻酔下での手術前後の患者さん、放射線治療や化学療法(抗がん剤治療)中の患者さんに対して、歯科において口腔内の管理を行う事により、合併症が減少し治療を円滑に行える事が明らかになって来ました。術後の発熱や重症合併症が減少するなど、早期の社会復帰に繋がることが報告されるようになり、平成24年度診療報酬改訂の重点項目のひとつとしてチーム医療が挙げられた際に、周術期口腔管理に係る保険点数が導入されました。

当科では当院で手術・放射線治療・化学療法を行う患者さんに対して主に入院中の周術期口腔機能管理を行っております。入院前や退院後については、かかりつけ歯科医院と連携をとっておりますので、ご安心ください。

周術期口腔機能管理を行う前には、必要性について十分な説明をさせて頂く様に気を付けておりますので、遠慮なくお問い合わせ下さい。

当科スタッフ一同、予定している治療が円滑に行われ病状が順調に経過するように精一杯協力したいと考えておりますので、宜しくお願いします。

なぜ入院前に専門的なケアが必要なのでしょう?
 入院前には、歯科医院で専門的なお口のケアを。
 術後の合併症を予防
 感染症のリスクを軽減
 詳しくは担当の医師が歯科医師にお尋ねください
 広島市民病院